

# 学生の自主的活動の軌跡

須藤竜之介 自主的活動

本特集は決断科学プログラムにおける学生の自主的研究・教育活動の記録をまとめたものである。自主的活動とは、プログラム生による学年や専門分野の垣根を越えたチームでの研究や教育、あるいは社会的実践等に関する独創的な活動の総称である。決断科学プログラムは、学生の自主的研究・教育活動支援という形でこの自主的活動の助成を行なってきた。助成は本プログラムがまだ試行段階であった2014年から始められており、プログラムが学生の自主的な活動に非常に注力してきたことが窺える。

これまでに55にもおよぶ活動がプログラムのサポートのもと進められてきた(表1)。これはあくまで助成に申請して予算を獲得したものの総数であり、実際にはさらに多くの活動が自主的に行なってきたものと思われる。内容は調査や開発のような研究活動から、英語力の向上や決断科学の考察のための勉強会、冊子やメディアを通じた広報、イベント運営等、非常に多岐に渡る。この雑誌「決断科学」も例に漏れず自主的活動「機関誌部」によるものであり、他の活動においてもプログラム外でのイベントの開催や成果発表を行うなど、自主的活動の規模は決断科学のアウトリーチの一翼を担うほどのものになっている。

本特集では、これまでの自主的活動のなかでも筆者が一際異彩を放つと感じた活動に焦点を当て、各活動の代表者によるその足跡を辿る論考を紹介していく。具体的には、角玲緒那を代表とする「サイエンスカフェ部」、

表1 これまでに助成を受けた自主的研究・教育活動の一覧

年度	課題名
2014	集団で意思決定する小型マルチコプター(ドローン)の開発 とりづくしま"もない?集団間葛藤の心理過程の解明 一日韓関係と対馬の視点から— 「対馬らしさ」および対馬市内の認識の差異に関する実態調査 聞き取り調査による過去の生物データベース作成の試み 福岡市保険環境学習室「まもるーむ福岡」の有効活用を考える 社会調査の方法論に関する学習会および実習 機関誌 サイエンス・カフェ Macを使用した書類作成並びに、ソフトウェア開発
2015	English Communication Café 決断科学における社会科学的基盤に関する研究会 島おこし活動への参加協力の温度差 一質問紙を用いた対馬市内の実態調査— 機関誌部 サイエンスカフェ部 ドローンを用いた環境被害・災害状況等調査手法の開発と実践 創食俱楽部～大学院生の健康づくりのための食文化研究～ 九州大学決断科学大学院プログラム生のための確定申告の手引きの作成 オトナ塾～持続可能なキャリアを目指す博士のための実践教養講座 決断科学における理論構築のための自主的研究会 観光地における集客力の高い地域イベントを考える グリーンインフラの觀点から地域のデザインや資源、魅力を考える 伝統工芸を対象としたプロモーション活動の試み ドローンを用いた環境調査・災害現場での利活用 English Communication Café 機関誌部 サイエンス・カフェ 他者協力の心理傾向は対馬と対馬で異なるか？ 一生業形態による文化比較— Decision Science Newsletter 避難生活改善部 サイエンス・カフェ部 決断科学における理論構築のための勉強会 生物分類勉強会 野生動物管理方法と獣害対策に結びつける資源利用について勉強する会 -「獣害対策への参加と地域貢献を目指して」 地域資源を取り入れた新たな体験型イベントの考案および実現可能性の検討 創食俱楽部による大学生・院生の健康づくりとフードビジネスを通じた地域振興およびキャリアパスの考察 伝統工芸を対象とした消費者の立場からのプロモーション活動の試み
2016	「決断科学」は？ 心理学的側面からの検討 -学際的研究を目指して Tiny World 世界中の知識を 一本の木に～ 0.1(ゼロから伊都)mulberry house(旧桑原購買店)を拠点とした地域活性化 フィールドワークのための救急救命 Analyzing impact of a monitoring application on consumption behavior of electricity デザインを通して決断科学のプランディング戦略 現場フィールドワークから地方農村地域におけるソーシャルビジネスを考える 創食俱楽部 伝統工芸を対象とした消費者の立場からのプロモーション活動の試み サイエンス・カフェ部 九大サブカルチャー研究会 Tiny World — A collaborative platform for structured knowledge 決断科学のサブカルチャーの考察とその表現(九大サブカルチャー研究会) 創食俱楽部によるイベント活動 地域資源を取り入れた新たな体験型イベントの考案および実現可能性の検討 サイエンス・カフェ部 伝統工芸を対象とした消費者の立場からのプロモーション活動の試み An E-learning approach to reduce electricity consumption 在日モンゴル人博士留学生および研究者の第2回研究総合フォーラム運営
2019	

筆者須藤竜之介を代表とする「対馬トライアスロン実行委員会」、久保裕貴を代表とする「屋久鹿の集い」、そして竹内太郎を代表とする「創食俱楽部」の四つである。

数ある歴代の自主的活動のなかからこれらの活動を本特集で取りあげたのは以下の理由による。まず一つは4年以上活動が継続していることである。次に、活動内容と決断科学との関連性が高いことである。そして、活動の場がプログラム外へと開かれていることである。以上の点を満たす活動は、現場のニーズに即した実践の蓄積が大きく、決断科学が目指す実社会での地域問題の解決やプロジェクトの社会実装を考えるうえで参考になるものと思われる。そこで、これらの要件に該当する上記の活動に着目し、そのアーカイブを残すこととした。ここからは特集内の論考で取り上げられる各活動の概要を紹介していく。

サイエンスカフェ部は、決断科学プログラムの教員や学生の専門性を大学の外へアウトリーチしていくことを目的に、サイエンスカフェを軸にイベントを開催する活動である。実際にMUJI キャナルシティ博多や九州経済調査協会での定期的なイベント開催に至っており、決断科学プログラムの広報としてもその貢献は大きい。また、この活動は機関誌部とともにプログラムの初年度から現在まで継続している唯一の活動であり、自主的活動を代表するものと言えるだろう。

対馬トライアスロン実行委員会は、対馬で初のトライアスロンイベントの開催を目指す活動である。統治モジュールの対馬実習における上対馬高校の総合学習支援での経験をもとに、新規イベント開催のための課題をメンバー自らが実践し、その実現可能性を検討する活動が展開されている。この活動は対馬市の研究助成に採択されており、外部資金を獲得したことでプログラム内の実践活動から外部での研究活動へと発展させている点に特色がある。

屋久鹿の集いは、環境モジュールの屋久島実習におけるテーマの一つであるヤクシカによる獣害問題について、狩猟された有害鳥獣のジビエとしての利活用に着目して、その実践と普及を目指す取り組みである。九大祭での出店を通して一般の方々にシカ肉の味を体験してもらうことに加え、

日本における獣害問題についての啓蒙も行なっている。この活動はプログラムの助成を受けず有志メンバーが自己資金のみで九大祭等での収益化を目指す取り組みであり、まさに自主的活動と呼べるものである。また、社会的実践だけでなく、アンケート調査を行い学会で発表するなど、多様な側面から問題へとアプローチしている。

創食俱楽部は、「Normal but Special」をテーマに食や美味しさを見つめ直す提案を発信している。総括モジュール教員の比良松先生が開講する「自炊塾」の講義でアシスタントを務める竹内が、自炊塾の歴代履修生とともに学生団体を設立し、これまでの繋がりを活かして魅力的な生産者を消費者へとつなげるイベントを開催している。主要な構成員がプログラム外の学部生であり決断科学外部の人々や組織を巻き込んだスケールの大きい活動であること、そしてイベントだけでなくオリジナル商品の開発に至っていることなども他の活動にはない特徴である。

以上四つの活動について本特集では取りあげていく。各代表者による論考を読んでいただくことで、いずれの活動も決断科学プログラムを代表する独創的な活動であることがおわかりいただけるだろう。本特集を通して、決断科学における学生の魅力的な取り組みやその将来性の一部が伝われば幸いである。これらの多くの自主的活動の蓄積は決断科学プログラムにとって非常に有益であり、社会的事業への発展の示唆に富むものであると筆者は考えている。この自主的活動の軌跡が今年度で終了となるプログラムの今後の未来の指針となることを願う。



須藤竜之介 すどう りゅうのすけ

九州大学大学院システム生命科学府 一貫制博士課程5年

持続可能な社会を拓く決断科学大学院プログラム 健康・統治・環境モジュール。  
1989年東京都生まれ。2015年の「English Communication Café」への参加をきっかけに、気づけば24の活動に関わっていた。自主的活動を愛し、自主的活動に愛された男。